

# 令和6年度 学校評価報告書

学校名	三田市立学園小学校
-----	-----------

## 1 学校教育目標

「仲良く 元気に がんばる子」  
～自らをみがき 未来をひらく ころ豊かな児童の育成～

## 2 今年度の学校重点目標

- ①確かな学力の育成 ②特別支援教育の充実と推進 ③生徒指導の充実
- ④人権教育・道徳教育の深化・充実 ⑤防災教育・健康・安全の充実
- ⑥社会に開かれた教育課程の推進 ⑦風通しの良い職場風土

## 3 総合的な自己評価

昨年度「一人ひとりを大切に集団づくり」をテーマに心の教育に取り組んだが、本年度は継続するだけでなく、特別な教科「道徳」の授業から学級経営に活かしていく取り組みを行った。道徳という授業がどういふものなのかを最初の授業でじっくりとゆくりと展開したことで、子どもたちが道徳授業に対してのハードルを下げることとなった。昨年もあり学校生活が落ち着いたが、さらに安定した人間関係の下学校生活を送ることができた。人権教育・道徳教育の充実が様々なところへ浸透していていると感じる。課題については、具体的な提言、改善をしていくための方向性や手立てを検討して次年度に引き継いでいく。また体験学習等の機会を各学年増やし、五感を使った活動を展開することができた。様々な体験を通し、心身ともに成長が見られた。

## 4 総合的な学校関係者評価

◇学力向上については、「読書活動」に課題が見られる。ただ全国的に活字を読む機会が激減している。学園小は借りる冊数を増やしたり、移動図書館を呼ぶなど取り組んで頂いている。子どもたちに読書する機会を増やすよう家庭への情報発信もお願いしたい。  
◇「進んで学習に取り組む」ことは、自らプラスアルファの学習に取り組むことで難しいと思うが、学園小の先生方は子どもたちの成長を考え、その機会をたくさんもっていただいている。今後とも子どもたちの「心」「身体」が成長できる取り組み(学習や体験活動、夢プロジェクト等外部からのお話)を続けて頂きたい。

## 5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	教育課程の編成(週時程・日課表・行事等)は適切である。	・適切である。朝読書や朝の学習を取り入れたことで、朝のスタートが落ち着いた。	・朝学習、朝読書をすることで一日のスタートが落ち着いた雰囲気ではじめられたことから継続して取り組む。	・教職員のほたらき方改革が進み、先生たちの心の余裕ができれば、それは子どもたちへの学びにつながる。適切な教育課程の下、学校行事等を活性化してほしい。
	各教科・領域における授業時数は適正に確保できている。	・2、3年生の1学期、学期末の各学年の6校時授業の日を減らしたが、授業時数は適正に確保された。	・授業時数を見直し、ゆとりを持たせた年間授業時数を設定する。	
学習指導	児童が主体的に学習に取り組める授業を展開できている。	・タブレットを活用することで子どもが興味をもって主体的に授業に取り組むことができた。	・ミライシードを使って、子どもたち同士の情報交換を行いながら学習に取り組む機会を作る。 ・学習の進め方やノート指導等スタンダード化を図り、わかりやすい授業づくりを目指す。	・家庭学習は保護者が子どもをしっかり見てもらわないといけないが、保護者も今の時代忙しく、なかなか見られないのが現状である。家庭での学習習慣を身につけさせるためにしっかりと「習慣づけ」を身につけさせる適量の学習を学校から毎日設定し、子どもたちに学ぶ姿勢を身に付けさせてもらいたい。
	個に応じた授業の工夫ができている。	・めあてを提示して、子どもたちに見通しを持たせて学習に取り組むことができた。 ・指導補助体制を組み、個別の支援に取り組んだ。	・視覚優位や聴覚優位なども考慮し、板書の工夫やタブレットを活用する。 ・がんばりタイムや特支アシスタント等支援員の活用を図り個別の支援を充実させる。	
	読み・書き・計算の基礎的な学力をしっかりと身につけさせている。	・ミライシードのドリルパークを積極的に取り組んだ。 ・朝学習は、学習のポイントを確認させることができた。	・家庭学習の定着が今後の学習姿勢にも繋がることから、日々の学習について成長段階に合わせた適量の課題設定をする。 ・朝学習やドリルパーク等を継続し充実させる。	
生徒指導(生活指導)	学校の決まりやマナーを児童が身につけるように教職員で共通理解し指導している。	・委員会活動で廊下を走らないように声掛け週間を設定するなど、学校生活向上に向けて取り組めた。	・時間を守る、忘れ物をしない、話をしている人の方を見るなど当たり前のことを当たり前に行えるよう、今後も根強い取り組みが必要である。教職員での	・毎年挨拶についての課題が上がっている。これについても「習慣づけ」が必要である。コミュニケーションの基本でもあるので挨拶ができるように朝だけでなく様々な場面で挨拶をしてほしい。また、保護者や地域の大人も積極的に子どもたちに挨拶をしていくようにまちづくり協議会でも依頼し、地域全体で子どもたちを見守る、そのような街になってほしい。
	児童がすすんであいさつできるように指導にあたっている。	・昨年よりも9ポイント上昇の78%が肯定的な評価となっている。昨年度よりも挨拶ができるようにはなったがまだまだ自分から進んで挨拶できる子どもが少ない。	・学校運営委員会からも挨拶についての意見を頂いた。教員だけでなく保護者も進んで挨拶してもらうよう啓発を行う。 ・児童会のあいさつ運動や保護者、児童への啓発を引き続き行う。	
	いじめや不登校の問題に対して見逃すことなく組織的に対応している。	・些細なことでもいじめの可能性を前提にいじめ対応チームを招集し、組織的に解決に向けての方向性を確認することができた。 ・月1開催の校内・生徒指導委員会や職員会議の際に気になる児童の様子を交流し全教職員で共通理解することができた。	・いじめの認知について、被害者の保護者からの連絡で発覚することが多い。日常の些細な子どもたちの変化を見逃さないよう教職員同士の情報交換が必要である。 ・児童のよりよい成長を促せるよう、学校と保護者が協力できるような関係を築けるよう努力する。	
開かれた学校・地域・保護者との連携	学校教育目標を理解し、家庭・地域・社会とつながる教育を推進している。	・ながしお農園へ訪問し、イチゴハウスの手伝いをしたり、ジャムづくりで交流したりした。多くの地域のボランティアの方々へありがとう朝会で感謝の気持ちを子どもたちが伝えることができた。	・校外学習での体験活動が増加してきたが、SDGsや社会とつながる学習や活動の設定をし、充実させる必要である。	・本年度はすべての学年で校外学習等を行った。また外部人材にも来てもらい、様々な体験をさせてもらった。子どもたちにとってとても良い経験になったと思う。子どもたちの生き生きした顔を保護者や地域の方へ発信いただくことでボランティアにも参加しやすい。学校を中心に地域が活性化していくことを期待する。
	保護者や地域の方の情報や願いを聞く機会を積極的に持っている。	・授業参観、人権参観、学級集会、個人懇談など保護者に来校していただく機会が増え、保護者の思いを聞く機会を持った。	・地域の方々との関わりはまだ十分とは言えないのが現状である。関係者評価等で地域の方の情報や願いを把握したい。	
	PTA・学校支援ボランティアとの連携により、教育環境整備を行い、地域の核となる学校づくりをすすめる。	・ミシンボランティアや音楽会の器楽ボランティアなど子どもたちの活動支援に多くの方々に助けていただき、行事等を行うことができた。	・クラブ活動や学級活動などに地域の方々やボランティアの方々に参加いただき、子どもたちの交流活動を活性化していく。	

## 6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
2学期	教職員による学校評価、児童・保護者アンケート実施
3学期	教職員による学校評価、児童・保護者アンケート結果公表
行事ごと	保護者へのアンケートの実施

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む  
※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

## 7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
6月	運動会参観
7月	本年度の活動計画、学校経営方針の説明、年間計画等
10月	音楽会参観
11月	研究発表会(公開研究授業、事後研究会、講演会)
12月	2学期の学校評価、3学期の教育活動説明
3月	本年度のまとめと次年度に向けて

## 8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
4月・5月	学校だより	学校教育目標等の周知	
3月	学校だより	学校評価の結果及び今後の改善策等を記載し保護者に配布	○
3月	学校ホームページ	学校評価の結果及び今後の改善策等を掲載	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います

※ 行は、適宜加除願います。